

青き誇りプロジェクト

～青年パワーで村を盛り上げたい～

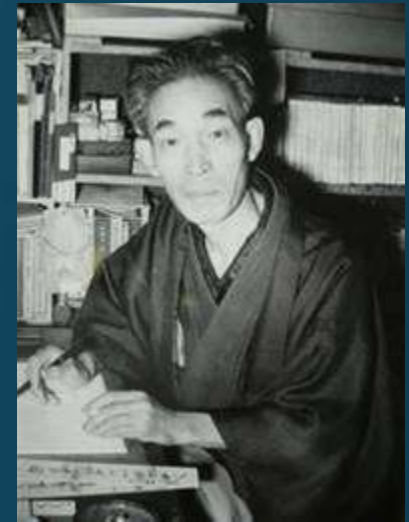
- 平成青木時報発行
- 神楽殿サウンドフェス
- 青木若者会議

どろひやくしょう

泥百笑 山浦和徳

平成25年度長野県地域発元気づくり支援金活用事業

青木時報

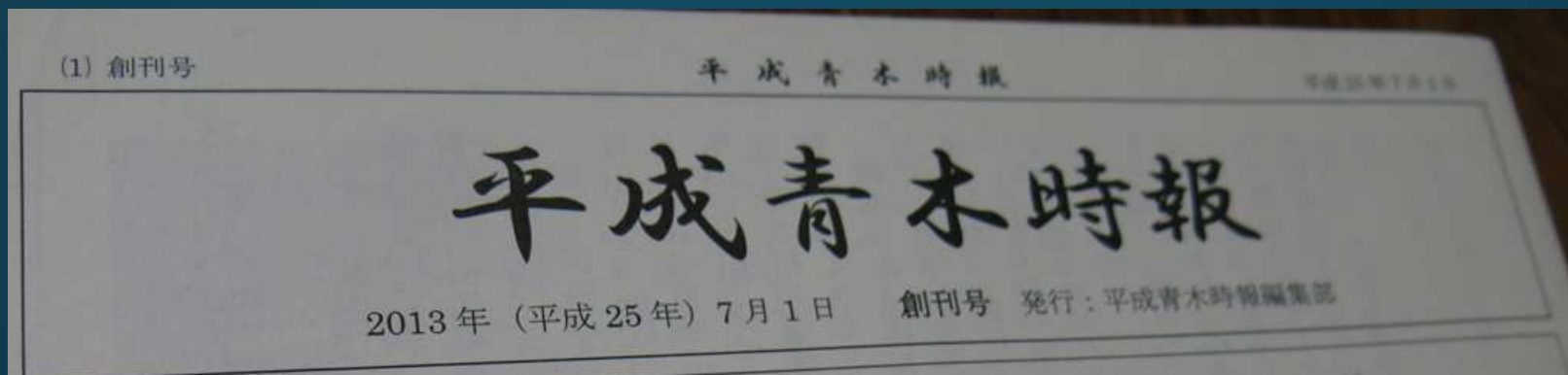


大正デモクラシーが真っ盛りだった大正10年5月に誕生した地域新聞で、初代編集長は自由律俳人の栗林一石路。農事のこと、家庭のこと、事故や慶弔ニュース、村の歴史や伝説の紹介、青年たちの人生相談など、内容は多岐に渡っており、**大正10年から昭和36年まで、41年間に392号を刊行。**

これが青木村の真の連携と文化形成に大きな役割を果たしてきました。

「時事の報道批判を掲載します」と宣言したうえで、政府の政策や干渉に対して度々激越な論文を載せるなど、“義民・反骨・自立の村”と言われる青木村の原点であり、その精神の歴史的文化財と言っても過言ではないでしょう。

平成版の青木時報を発刊したい



- ・ 村で頑張っている人、活動している方を紹介
 - ・ 村内のお店を取材
 - ・ 自分たちの主張
 - ・ 民間の立場、若者視点からの記事
 - ・ 昔の青木時報の記事を紹介
- など

昨年度は毎月発行。全戸配布。村内コンビニ、上田合庁、Hanalabなどにも

2013年7月創刊

東信ジャーナル

株東信ジャーナル社 発行人 井出正徳 発行所 長野県上田市中島4-19-11
TEL 2734-21-4822 FAX 2734-26-1882

人の心は思いを大切にし
地域の繁栄の責を負ふ

上田信用金庫

「平成青木時報」を創刊

青木の若者有志、地域の情報発信

9月、初の「若者会議」



青木村の若者有志はこのほど、同村の新聞「平成青木時報」を創刊し、村の発展に寄与する情報発信を始めた。9月には初の「若者会議」を開催し、地域の発展に寄与する情報発信を始めた。

創刊は、4時30分～5時30分は、同村の青年会を会場とする「若者会議」を開催し、同村の発展に寄与する情報発信を始めた。9月には初の「若者会議」を開催し、地域の発展に寄与する情報発信を始めた。

編集長は、山田和雄さん（30）で、青木村の若者有志を中心に、地域の発展に寄与する情報発信を始めた。9月には初の「若者会議」を開催し、地域の発展に寄与する情報発信を始めた。

創刊した「平成青木時報」と山田さん（左）と山田さん（右）が情報発信する場がなかった。必要を感じて、必死に頑張りました。若者が村の発展に寄与する情報発信を始めた。9月には初の「若者会議」を開催し、地域の発展に寄与する情報発信を始めた。

第三種郵便物認可

大正―昭和に青年会発行 今の

小県郡青木村出身や在住の20、30代の有志8人が、村の情報を伝える新聞「平成青木時報」を創刊した。村の将来を担う若者や多くの村民に、地元の良さを知ってもらおうと、大正から昭和にかけての青年会が発行した「青木時報」の名を使った。月1回1800部を印刷。区（自治会）を通じて村全戸に無料配布し、村内の図書館やコンビニエンスストアにも置く。



7月に発行を始めた「平成青木時報」と山浦編集長（右）らスタッフ

青木 青木時報「平成版」

新

青木の人を取材





青木若者会議

信州プロレスリングのグレート☆無茶氏の基調講演を聞き、青木村のこれからについてのワークショップを行なった。村の若い人が集い、意見交換をすることにより、いろいろなアイデアを聞くことができた。議員さんも招き、政治と若者が接する機会も作った。





青木若者会議



神楽殿サウンドフェス



長年使われていなかった、江戸時代に建てられた神楽殿を活用。回り舞台を備えた村指定文化財。

活動を通じて多くの方に出会い、村への思いやこれからの夢などを聞くことができ、人や村への愛着も増しました。今後も未熟ながら活動を続け、村の魅力や課題などを発信していきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

